http://www.edu.pref.kagoshima.jp/ （通巻第１８０７号）

指導資料

鹿児島県総合教育センター

外国語(英語)第75号

－中学校，特別支援学校対象－
平成26年４月発行

鹿児島学習定着度調査を生かした「思考・表現」に関する指導法改善
－「外国語理解の能力」，「外国語表現の能力」に関する視点から－

平成25年度から実施されている鹿児島学習定着度調査は，主として「基礎・基本」に関する問題及び主として「思考・表現」に関する問題（以下「思考・表現」問題）の二つの内容から構成されている。

本稿では，調査問題を基に求められる「思考・表現」問題の出題のねらいを「外国語表現の能力」，「外国語理解の能力」の視点から整理し，指導法改善への手がかりを示す。

１　「思考・表現」問題に出題されている内容

本調査における「思考・表現」問題は，内容を理解した上で，表現に結び付けるなどコミュニケーションの場面が設定されている。具体的には，次の内容が問われている。

「聞くこと」･･･聞き取った英語を基に，英文を完成させたり，英語の質問文に英語で答えさせたりする内容
「読むこと」･･･文と文のつながりや段落と段落との関係や内容に合う英文選択を行う内容
「書くこと」･･･対話文の流れを把握した上で，適切な英文を書く内容

これらの内容を把握し，授業で行う学習活動に具体的に当てはめることで，指導改善の考え方を整理することができる。

２　主として「外国語理解の能力」に関する問題

※<　>は，本調査で示されている「領域」・「観点」

(1)　主に「聞くこと」における内容理解

ア　概要・要点を聞き取らせる問題

＜「聞く」,「話す」・「表現」，「理解」＞

(１年)対話文を聞いて，Becky likes (basketball). の（　　　）部分に適する語を選ぶ。
(２年)対話文を聞いて，答え方を選ぶ。 a) Did Mike do his homework yesterday? b) What is Mike going to do this summer?

イ　想定される活動場面と指導の実際

スポーツや教科など身近な話題について２往復程度の対話でコミュニケーションを図る活動が想定される。実際の指導としては，疑問詞を用いた疑問文の文構造とその応答の仕方を理解させた上で，音声による口頭練習に親しませることが考えられる。現在，多くの学校で，生徒の日常生活に即した対話リストを作成し，ペアを組んだ生徒が授業の始まりの５分間で数多くの英問英答を行っている（帯活動）。生徒が，英語でコミュニケーションを図りながら定着を図る効果的な指導である。

(2)　主に「読むこと」における内容理解

ア　文のつながりを理解し，代名詞が指すものを適切に選択させる問題

＜「読む」・「理解」，「知識」＞

（１年）下線部が指すものを判断する。
A: Oh, you have a nice watch.
B: Thank you.　I like it very much.

イ　文と文の関連に注意し適切な接続詞等を選択させる問題

＜「読む」・「理解」，「知識」＞

（１年）適する接続詞を判断する。
Her favorite sport is basketball, (but) I don't like it. I like soccer.

（２年）適する接続詞を判断する。
You sometimes asked me about ～, (but) I didn't answer some of your questions.

ウ　英文を読み，要点を読み取らせる問題

＜「読む」・「理解」，「知識」＞

本文の内容に合う英文を選ぶ。
（１年）　「友人の紹介」(74語)を読み，好きなスポーツや家族など英文中に表れる事実について正しく判断する。
（２年）　「オーストラリア旅行中にお世話になった夫妻への手紙」（136語）を読み，書かれている事実について正しく判断する。

エ 想定される活動場面と指導の実際

(ｱ) 教科書を読み進める活動

調査問題にある代名詞や接続詞の機能を理解し，文のつながりを考えながら，概要・要点を把握する力を育むには，教科書の英文の内容を生徒自身が読み進める活動において，生徒が文脈を考えながら理解する過程で指導することが適当である。

つまり，**図１**で示すように，読む目的に応じて概要や要点を把握する過程で，必要に応じて，文の展開を考えたり，代名詞に対する言及活動を行うことである。したがって，概要・要点の把握を行わせるに当たり，読み取りの視点として事前に教師が発問等を行い読む目的をもたせることが大切である。

概要・要点の把握(読む目的)・・・発問等
・ 英文上に表れる事実の理解
・ 行間や英文全体の意味の理解
（例）物　語 → 登場人物の心情
　　　説明文 → 書き手の主張
必要に応じて
文構造，代名詞，接続詞など文法の理解

図１　「読むこと」における概要･要点の把握

具体的には，書き手の主張を理解するために，情報の整理の必要性を感じさせる発問や登場人物の心情を追求したくなる発問等が考えられる。

(ｲ) 情報の整理を進める指導の場合

説明文などで情報が多い場合においては，英文上に表れる事実を整理する発問やワークシートを工夫し，生徒に読み取らせることで理解が進むと考えられる。Lesson 8 India, My Country (New Crown English Series 2) の Read のパートでは，インドの少年ラージによる自国紹介のスピーチ（188語）が取り上げられ，言語や文化の多様性について述べられている。このような場合，以下のようなワークシートを用いることで情報を的確に把握させることができる。

① How many languages does Raji speak?

インドの人口	言語の数	ラージの使う言葉

② What languages does Raji speak at home?

その言語の使用地域	その語で楽しんでいること

（以下略）

①では，"They speak many languages. I speak three of them: Marathi, Hindi and English."の２文に着目させ，下線部の代名詞の理解を確認することができる。

②では，"It is used in western India.", "I speak it with my family at home.",

"I enjoy reading them."の３文において下線部の代名詞に対する言及活動を行うことを目的としている。

(ｳ) 行間や英文全体の理解を進める場合

概要・要点把握する活動においては，行間や英文全体の流れから書き手の主張を読み取ることが，極めて大切である。ここでは，Program7　If You Wish to See a Change（Sunshine English Course 2）の Section　1を例に挙げる。発問として，以下を生徒に提示した場合，どのような指導が考えられるだろうか。

①　スピーチのテーマは何か。 ②　なぜ伝説のスピーチなのか。

①では，"If you can't fix the environmment, please stop breaking it." に着目させ，「環境破壊をやめてほしい」というメッセージを代名詞"it"の内容に言及しながら，読み取らせることが大切である。

②では，（リオでスピーチを行った1992年）"She was only twelve years old. But she knew that we are all part of a big family." の２文に着目する。下線部の接続詞"But"によって，「わずか12才であるにもかかわらず，"that"以下の内容（文中下線部）を深く理解していた」ということについて強調が置かれていることに気付かせ，書き手の意見を読み取る指導ができる。

(ｴ) 読み進める活動の指導上の留意点

表１は，「読むこと」の標準的な指導過程を示している。前述の(ｱ)～(ｳ)は，表中の「内容理解」の過程である。「読むこと」の指導を進める上で，次の２点に留意したい。

表１　「読むこと」の指導過程

	過　程	指導内容	教具等
導入	Oral interaction あらまし把握 語彙・文法	・　スキーマ形成 ・　視点提示 ・　意味確認，練習	・picture charts ・CD Listening ・単語カード
内容理解	読み取り （黙読） 概要・要点把握	・　生徒の考えの確認 ・　意見交換の設定 ・　根拠となる英文の指摘	・T-F quiz ・英問英答 ・日本語の問い
表現	音読	・内容が伝わる読み方の指導 （強勢，間，抑揚，リエゾン）	
	Post reading	・内容に基づく表現活動	・ワークシート

第１に，英文の背景についてある程度の理解を促し，関心を高めることである。導入時に，異文化の事情など，読もうとする英文の背景について関心を高め，読む目的に結び付けることで，概要・要点を把握する意欲を喚起させることができる。

第２に，取り扱う語彙や文法等の重点化を図ることである。具体的には，概要・要点の把握に不可欠な語彙や文法等をその視点で精選し，生徒に考えさせたり，指導を行ったりすることが必要である。

ただし，当該時間に取り扱わない語彙や文法等についても，今後の学習に重要なものは，ワークシートにまとめ，家庭学習等において，生徒自ら確認し定着を図るような工夫も必要である。

３　主として「外国語表現の能力」に関する問題

(1)　主に「書くこと」における自己表現

ア　対話の流れを理解して適切な英文を書かせる問題

＜「話す」,「書く」・「表現」,「知識」＞

（１年）スポーツに関する対話に続いて A:　Do you like sports, Ben? B:　Yes. ______________ Ben の立場で答える。

（２年）英語に関する対話に続いて
A: I study English every day.
B: Oh, I see. Why do you study it?
A: Because＿＿＿＿＿＿＿＿
Ａの立場で答える。

イ　自分の気持ちなどが読み手に正しく伝わるように文と文のつながりなどに注意して文章を書かせる問題

＜「話す」，「書く」・「表現」，「知識」＞

（１年）　Hello, Mr. Green に続いて自己紹介の英文を３文以上書く。
（２年）　I'm going to talk about my favorite season.に続き，好きな季節について３文以上書く。

ウ　想定される活動場面と指導の実際

アにある対話の流れを理解して，適切に表現する力の育成は，**２-**(1)**-イ**の指導を行いそれを文字として適切に表すことに留意して指導を進めたい。

イについては，コミュニケーションの場面を想像し，自分の考えなどを相手に伝えるため，基本的な語彙や文構造を活用し，内容的にまとまりのある一貫した英文を書く以下のような活動が想定される。

○　身近な出来事について，自分の感想や考えを書く。（日記や手紙など）
○　聞いたり読んだりしたことについて自分の考えを書く。（意見の記述など）
○　あるテーマについて自分の考えや気持ちなどを書く。（「将来の夢」など）

まとまりのある英文を書く活動においては，生徒の到達目標を具体的に設定し，指導と評価を行うことが大切である。この指導と評価のめやすを「判断基準」（**表２**）として設定することで，学習段階に適する内容の広がりや表現形式の活用を見通しをもって指導することができる。「判断基準」設定の手順としては，生徒の記述等に含まれるべき要素（判断の要素）を授業で目指す学習の状況に照らして端的に数項目で表す。また，「判断基準」を基に，予想される表現例を作成することで，指導すべき語彙や文構造が焦点化される。

表２　「判断基準」の例

活動概要（第2学年当初を想定）
好きなものやできることなどについて自己紹介する英文を書く活動
評価規準（外国語表現の能力）
スピーチを想定して，自分の好きなことやできることなどについて紹介する文を書くことができる。
判断の要素
ア　自己紹介の記述　　イ　スピーチの構成 ウ　英文の量
判断基準
ア　次のような内容を書いている。 好きなもの(人)／時間があるときにすること／自分の持ち物／できることできないこと イ　挨拶，名前，終わりの言葉などスピーチの形式が整っている。 ウ　８文～10文の英文を書いている。
【予想される表現例】 Hello, everyone. My name is Atsushi Honda. I'm a member of the soccer team. I like soccer very much. My favorite player is Kagawa Shinji. He is a great player. I can play the guitar. I play the guitar in my free time. Thank you.

実際の指導に当たっては，「判断基準」の各項目を満たすよう段階的に発想を促したり，必要な文構造のモデルを示したりすることが考えられる。

以上，「思考・表現」問題を中心に述べてきた。調査問題のねらいを指導法改善の視点とし，実際の授業に生かすことが大切である。

－引用・参考文献－
○　平成25年度鹿児島学習定着度調査（英語）平成26年１月
○　金谷憲他著『英語授業ハンドブック-中学校後編-』平成21年，大修館書店

（教科教育研修課）